

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570102362		
法人名	社会福祉法人 松涛会		
事業所名	グループホーム フロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山町三丁目12番1号		
自己評価作成日	平成27年7月27日	評価結果市町受理日	平成27年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの「自分らしく 穏やかに 生きがい 歓喜(よろこび)」に」を基に、職員一同で同じ方向性を持って入居者様をはじめご家族の意向を大切にし、一人ひとりに合った支援を心かけている。今何を求められているか、出来ないを決めつけずに、可能な限りの様々なサービスを提供出来る様にしっかりアセスメントし、ケアに当たるように努めている。地域の行事にも積極的に参加して頂き、普段とは違った入居者様の笑顔や姿を見せて頂けるように、又地域密着型として地域との関わり合いを大切にお互いに良い関係を築けていけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の夏祭りや文化祭に参加されている他、事業所の夏祭りに参加されている人やボランティアの訪問、小中学生、高校生、大学生の実習など、地域のいろいろな人と交流される機会があり、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるように支援しておられます。職員は地域で行われる防災訓練にも定期的に参加されている他、事業所のある拠点施設全体が地域の非常災害時の拠点ともなっており、事業所の災害時における地域との協力体制の構築へとつながっておられます。管理者を中心として業務改善やサービスの質の向上に取り組んでおられ、記録の時間を短縮するための研究を行われ、記録時間の短縮によって生まれた時間を利用者に寄り添うケアにつなげられている他、日々の関わりの中での利用者の表情や言葉、様子や具体的な場面を「ふれあい記録」に記録して本人の思いや意向の把握に努められ、常に本人本位の視点で検討され、介護計画に反映できるように努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく 穏やかに 生きがいを 歓喜(よろこび)」の理念を掲げ、毎朝のミーティング時に全職員で唱和し、共有・確認の上で実践している。又、研修時や勉強会で全員が、理念についての意識作りに勤めている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。毎朝のミーティング時に唱和し、カンファレンスや勉強会で、理念を確認して共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域の行事(地域の防災訓練・夏祭り・地域文化祭・マラソン大会の応援等)に、又、ボランティアとして月に1回地域清掃(公園やグラウンドの草刈)に参加している。保育園児や小学生・中学・高校製を招いて、利用者とともに交流を図っている。	自治会に加入し、副施設長が総会に出席して、情報を得たり、情報提供をしている他、老人会に加入し、老人会からも毎月、情報提供がある。毎月、地域の清掃作業に職員が参加している。利用者は、地域の文化祭に手づくり作品を出展し、夏祭り、盆供養祭、地域の防災訓練、マラソン大会の応援に職員と一緒に参加して地域の人と交流している。法人併設施設合同で実施している夏祭りや文化祭に参加している地域の人や、拠点施設に来訪しているボランティア(押し花、コンサート、歌、マジックなど)の人や保育園児と交流している。近所の人と散歩時や買物時に挨拶を交わしたり、花や果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。小中学生、高校生、大学生、専門学校生の実習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生を招待、又中学生の職場体験を受け入れ、入居者と実際にふれあってもらい、認知症の人についての理解を深めてもらっている。その他、運営推進会議を通して、地域の方にも伝えている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体会議にて、自己評価及び外部評価について意義は説明している。自己評価を実施する事で客観的に見る事ができ、改善点は管理者をはじめ、職員全員で共有、ケアに当たれるように取り組んでいる。	管理者は評価の意義を職員に説明した後、自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、主任と2人でまとめている。職員は自己評価を日々の業務の振り返りと捉えている。家族会の開催や応急手当や初期対応の実践的な訓練の実施など、改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて近況及び実施行事等を報告説明している。会議において出された意見・アドバイスは事業所にて議事録、全体会議で取り上げてサービスの向上に努めている。	会議派年6回開催し、利用者の近況報告や行事報告、職員の研修報告、事例報告、勉強会、防災訓練の状況報告、外部評価への取り組み状況等について説明し、意見交換をしている。災害時に地域から寒さを防ぐための毛布の協力や利用者に適している外出先の紹介、カーブミラーを塞いでいる樹木の伐採の必要性等の意見があり、サービス向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者からは実地指導の場で指導、アドバイスを受けている。又、是正等ある場合はスムーズに提出できるように連絡、相談している。又、運営推進会議には、地域包括センター職員も参加、議事内容も議事録にて報告している。	市担当者とは、実地指導時や電話、直接出向くなどして状況報告や相談を行い、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や電話で事例相談や情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束マニュアルを設置、全職員が閲覧、確認できるようにしている。又、施設内・外の研修に参加する事で意識を高めている。施錠については、10時から16時は原則開錠する等最小限に努め、外出希望の方がいる時はその人に合わせた対応をしている。	マニュアルがあり、職員は内部研修で学び、身体拘束について理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、普段から利用者への言葉かけに注意するよう指導している。玄関は日中施錠しないで、外出したい利用者と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外の研修・勉強会に参加、虐待防止マニュアルをはじめ関係資料も全職員にて閲覧できるようにし、適切にケアが実施されるように努めている。又、虐待に繋がる行為等は会議等で検討し、ケアに当たっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修において権利擁護について学ぶ機会がある。今現在成年後見人制度を利用している利用者はいないものの、必要のある場合はいつでもパンフレットを渡す等説明、支援できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。契約の際は契約書、重要事項説明書の内容を1件1件読み上げ、説明して理解してもらえるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在苦情は寄せられてはいないが、苦情窓口は重要事項説明書にも記載・ホーム事務所にも掲示して全職員も周知している。各ユニットには意見箱(開聞箱)を設け、面会時等の際も含め、気軽に意見・要望を出してもらえるようにしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。運営推進会議時や家族会参加時、面会時、電話等で家族からの意見を聞いている。意見箱を設置している。家族の面会時には、職員が直接声をかけ、利用者の状況報告をして、要望を聞いている。家族会の内容や回数についての要望があり、取り組むこととしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加の全体会議(副施設長も参加)やユニット会議において、職員一人ひとりが意見を出せるよう(前もって用紙に記入する等)にして、意見・提案を反映できるようにしている。	職員は、常時、事務室に置いてある「検討したい項目」用紙に意見や提案を記録し、月1回の全体会議(副施設長出席)やユニット会議で全職員で検討し共有している。電気製品の修理や玄関の施錠、植木の伐採など、職員の意見や提案を運営に反映している。記録の時間を短縮するための研究を行い、記録時間の短縮により生まれた時間を寄り添うケアにあてるなど、サービス向上に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員間で意見情報交換を随時行っており勤務体制をはじめとした働きやすい職場の環境を維持できている。研修等の参加希望も実施できるように環境も整え、スキルアップも図られており向上心を持てるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、施設内・外の研修に、職員参加の機会がある。研修参加後には法人内で研修発表としている。新人は法人内新人研修を受け、職場で指導を受けており、働きながら学べるように取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は報告書を提出し、法人研修や内部研修で復命報告を行い、全職員で共有している。拠点内(法人併設6施設合同)研修は、外部講師や副施設長、管理者が講師となって、月1回、計画的に、虐待防止と権利擁護、福祉車両安全運転、夜間走行の危険、食中毒防止、口腔ケア等について実施している。内部研修は、毎月1回、全体会議の中で事故対応(誤嚥、異物除去、転倒防止、移乗の仕方)や接遇、身体拘束、虐待等について計画的に実施している。新人職員は法人で研修を受講した後、日々の業務の中で管理者や先輩職員に知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時に他施設との交流を図っている。又同法人内の他グループホームともグループホーム合同会議で、意見・情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族へカンファレンスを行い、要望等を聞きその上でケアプランを作成し本人家族に了承を得て、実施している。又、入居後も接する時間をしっかり取り、思いを受け止めるようにして安心してもらえるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の際に契約書、重要事項説明書の内容を含めしっかり話をし、グループホームとして可能なこと・出来ない事、又家族のわからない事・不安な事に対して説明、安心してもらえるようにし、より良い信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの要望や意見を聞き入れ「その時」必要としている支援を見極めている。その上でケアプラン作成している、その他、入居後に考えられる状況変化に伴い介護用品(車椅子・杖等)の必要時についての紹介も含め、対応にも努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、本人の希望や選択の自由性を最優先にしている。又、本人が得意としている事は逆に教えてもらう等して、その後の感謝の気持ち、言葉を忘れずにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も行事(誕生会・夏祭り等)の参加の呼びかけ、又、面会時にはホームでの近況報告を含め、その後の生活について家族の思いも含め一緒に考える等、共に本人を支えていけるような関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会も受け入れている。又、地域の行事には地域出身の方も参加して、個人的な交流も図れるようにしている。以前同施設内に入居していた方は、その時の友人等の行き来できるように配慮している。家族の協力を得て、外出・外泊等も行える様支援している。	家族や親戚の人、友人、近所の人、趣味仲間、職場の同僚の来訪がある他、電話の取次ぎや家族へ自筆の手紙を書いて出す支援をしている。馴染みの美容院の利用や商店での買物、自宅付近にドライブで出かけたり、家族の協力を得て墓参や仏様を拝みに自宅に帰ったり、法事や結婚式への参加、お茶会、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席をはじめ、気の合う方同士を常に配慮し、自然な形で誘導できるようにしている。又、お互いの居室へも、可能な限り行き来できるような関係が持てるような環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が、契約終了後も家族が不安にならないように必要に応じ相談・支援に努めている。他施設に入居された方をたずねたり、本人はもちろん、家族とも関係を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握できるように、関わる時間を大切にし、常に本人の視点で考えられるように努めている。又、家族から得た情報も含め記録に残し、職員全員が共有している。困難な場合も、センター方式を活用して本人本位に検討している。	入居時のアセスメントを活用している他、日々の関わり中で寄り添う時間を多くして、利用者の話した言葉や様子や具体的な場面などをふれあい記録に記録して、思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合はケアカンファレンスの中で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人がどのように暮らしてきたのか、本人、家族からの話、又、ケアマネからの情報シートを活用し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日24時間、日々介護記録(ふれあい記録)に記入し、職員全員で共有している。状態に変化のあった場合は、記入の際に筆記用具の色を変える等の工夫をして現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期・短期プラン終了の際は、その1か月前より家族からの要望意見も取り入れ、反映させたカンファレンスを行い、現状に即したプラン作成している。	利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心となって、月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、かかりつけ医、看護師、栄養士など関係者の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、期間に応じて見直ししている他、本人の状態や状況の変化に応じて見直し、介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふれあい記録をはじめ、バイタル・排泄・食事摂取量の記録を個別に作成して、職員全員が共有、把握している。又、その中でも新しい所見があれば、その点をシート(私の姿)に書き留めるようにし、計画見直しの際に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム便りを定期的に作成し配布したり、手紙や電話でのやり取りもできるようにしている。又、何事も臨機応変に対応できるように心かけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店に散歩を兼ね買い物に行ったり、入居者の家を訪ねたりして楽しめるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの主治医について説明の上、同意を得ている。月2回主治医による回診があり、近況報告している。その他にも電話・メールで随時報告・相談出来る体制を整えている。又、家族の希望があれば、以前からのかかりつけ医の受診も可能としている。その際の経過報告を含め、ホーム主治医との連携情報共有し、適切な医療を受えられるように支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は電話や面会時に家族に報告して共有している。週3回訪問看護師による健康管理がある他、夜間や緊急時を含めて協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回訪問看護師が来所し、相談できるようにしている。又緊急時ははじめメール・電話で随時連絡相談、適切な支援が受けられるようになっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに情報提供、交換して早期の退院が出来るように努めている。入院中は家族からの現状報告も含め、入院先病院相談員とも情報交換に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の際に関する指針を説明、意向確認を行い、署名をいただいている。状況変化が生じた場合はその都度、家族・主治医に報告・相談し支援できるようにしている。	「重度化に関する指針」を基に入居時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階からかかりつけ医や家族、職員、その他関係者等と話し合い、移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生の際は速やかに報告書を作成し事故対策委員会に報告提出している。委員会では月1回の事例検討会を行なう他、事業所内でも事故予防・再発防止について検討、改善に取り組んでいる。又、急変・事故発生時に備え、救急隊員によるAED講習等研修にも参加し、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、ユニット会議で検討して法人事事故対策委員会に報告し、意見もふまえて、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署の協力を得て、救急救命法やAEDの使用法の研修を受講し、内部研修で発作、喉のつまり、意識不明、転倒、窒息等の対処方法について実施しているが、実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いの下、自治会や近隣住民も参加し、夜間想定をはじめとした避難訓練を実施、避難経路の確認・消火器の使用法を身につけている。又、消火器の位置について、施設朝礼の際、各事業所毎に復唱、確認している。	消防署の協力を得て年2回、併設の法人6施設全体で昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火器、消火栓の取り扱い、通報訓練を利用者や地域住民、運営推進会議メンバーも参加して実施している。事業所独自に毎朝、防火機器の位置の確認を行い、災害時用の水や食料等の備蓄をしている。職員は地域の風水害時の訓練に参加している。緊急連絡網には自治会長が加入している他、事業所のある施設全体が災害時の拠点施設としての役割を担っているなど、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修等に参加している。日々一人ひとりの人格の尊重し、名前や呼び方などにも配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、声掛けしている。又、職員間の会話も入居者にわからないように配慮している。	内部研修で人格の尊重やプライバシーの確保について学び、職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報取扱いに注意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすいように、本人に選択できるような声かけをはじめ、意志表示しやすいよう働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思や希望を尊重しケアプランの実施をはじめ、その日を一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える方は、居室に鏡や化粧品等を備えている方もおり、又、ホームの洗面所にも個別にブラシを備えており、自身で行う事が出来る。一人で行えない方も本人の好み、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みに合わせて、嫌いなものは好きなものに変更、又、状態に合わせてソフト食等にする工夫をして提供している。一品作りの味付け・盛り付けを職員と一緒にを行い、食事を楽しみが持てるようにしている。職員も一緒に同じテーブルについて食事をし、食後の食器拭き等を行っている。	三食とも法人の配食を利用している。月に1回ある法人本部の給食会議に出席して利用者の好みや要望を伝えている。事業所では、毎日御飯を炊き、週5回程度は事業所菜園で取れた旬の野菜を使って、一品料理(酢の物、インゲンの和え物、枝豆ご飯、ブロッコリーの和え物)を手づくりしている。利用者の状態に合わせて、ソフト食やミキサー食等、形態の工夫や減塩食を提供している。利用者は、野菜や果物を切る、盛り付け、味付け、ランチョンマットを敷く、箸を配る、食器を洗う、メニュー書きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、会話をしながら食事をしている。おやつづくり(ホットケーキ、バレンタインデーチョコ、かき氷)やティータイム、レストラン風ワンプレートの食卓、誕生日のケーキづくり、季節行事食(そうめん流し、昆布の佃煮づくり)など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの取れたメニュー、食事になっている。食事量・水分量はそれぞれ記録しており、食事量が足りない等の時は、高カロリー食の提供で補うように支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後に、本人の状態に合わせた用具(ハミグッド・口腔洗浄液等)を使用し、職員の見守り、自分で行えない方は職員の補助にて口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。又、義歯は夕食後に預かり、洗浄消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にての排泄パターン、又状態や習慣に合わせ、一人ひとりに合わせた方法を、職員全員が把握、共有し支援している。又、本人からの意思・サインを見逃さないようにし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者に合った言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヤクルト・牛乳を飲用の上、水分補給や適度な運動の取り入れ等で、自然排便を促すように努めている。又、主治医に相談の上、一人ひとりに合わせた予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は週2,3回の入浴となっている。一人ひとりの状態、希望に添って入浴の順序を変える等している。又、季節によってゆず湯等に入浴を楽しんでもらっている。	入浴時間は10時30分から11時40分までと13時30分から16時までとし、希望すれば毎日入浴できる。湯加減や順番、入浴剤の使用など、利用者の希望に合わせて対応し、柚子湯にして季節感を味わうなど、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで言葉かけの工夫や職員の交代などの工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、部分浴など個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間とも入床時間は一人ひとりに合わせ、入眠の際は季節に応じ室温・湿度調整し、照明は本人の好み等考慮して、安心して眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局の薬剤師による薬剤指導の上、一人ひとりの薬ファイルを作成し、処方箋を含めすぐに確認できるようにしている。又、その日その日の服薬は、別の管理ケースに時間別・個人別にセットし、服薬時は職員間でダブルチェックを行ない、誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事・出来る事として、家事や読書を楽しめるように、又、家族や本人の希望で支援してほしい事を、一人ひとりセンター方式を活用しケアプランにも反映させ、実施支援できるようにしている。	DVDやテレビ視聴、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、ぬり絵、かるた、折り紙、紙細工で壁面飾りづくり、刺し子、棒体操、嚙下体操、ボール投げ、ボーリング、計算ドリル、漢字ドリル、お茶会、洗濯物干し、洗濯物たたみ、雑巾がけ、モップかけ、野菜の種まき、草取り、野菜の収穫、布巾や雑巾づくり、繕いもの、食事の準備、盛り付け、味付け、食事の後片付けなど、楽しみ事や活躍できる場面を多くつくり、支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や声掛けで、1日1回ホーム外に出かけられるように努めている。季節ごとの行事(初詣・花見・地域の文化祭等)にも職員と外出できるように支援している。又、家族の協力を得ての外出も出来る様に支援している。	周辺の散歩や買物、階下のテラスでティータイムを楽しむ、季節の花見(桜、バラ、紅葉)、ドライブ(自宅、海水浴場)、初詣、田中絹代館、海響館、文化祭、喫茶店、外食、お茶会に出かける他、家族の協力を得て外出をするなど、利用者の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望のある方は家族と相談了解の上、支障のない程度の現金を所持している。行事でお金を使う機会もあり、その際は準備、支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や大切な人と電話で話せるようにしている。可能な方は家族からの手紙の返事も、一言でも自筆で書いてもらえるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく、朝や日中は自然の光が感じられるようにしている。照明もその時間(昼間・入床前等)に合わせ配慮している。飾り付けもその時々季節が感じられる花や手作りの壁掛け等を配慮、工夫している	大きなガラス窓からは中庭の樹木の緑が見える共用空間は、明るく広々としている。室内には季節の花を飾り、壁面にはカレンダーや利用者の活動写真、季節の手づくり作品が飾ってある。テレビの前の大きなソファは利用者の憩いの場所となっており、畳の間では洗濯物をたたんだり、寝転ぶなど、利用者が思い思いの場所でゆったりとくつろぐことができる。音や温度、湿度、空気清浄に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のなかにおいても、畳を置いたスペースを作る等して一人ひとりが思い思いに、又、職員側から気の合う方同士と一緒に過ごせるように、配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し、本人の馴染みの深いものの、使い慣れたものをなるべく持って来てもらえるようにして、居心地よく過ごせるようにしている。	ベッド、箆筒、衣装ケース、ソファ、籐椅子、応接セット、鏡台、テレビ、時計、化粧道具、洋服掛けスタンド、位牌、座卓、座布団など本人が使い慣れた物や好みのものを持ち込み、観葉植物や家族写真、カレンダー、祝色紙、手づくりの自作品を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は一人ひとり希望を取り入れた上で、安全に過ごせるようにしている。居室以外でも、一人でゆっくり過ごせるスペースもある。又、トイレもわかりやすく目線の高さで表示しており、安全に行動できるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム フロイデ彦島

作成日：平成 27 年 11 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え。 事故発生時の応急手当や初期対応について、 防災訓練等において研修・講習には数名ずつ が参加しているが、全職員にわたって実践力を 身につけるまでは至っていない。	事故発生時に、全職員が同等応急対応、初 期対応が取れるようにする。	考えられる事故について、様々な想定の上、定 期的な模擬訓練の実施継続。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。